

養父市立宿南小学校

令和元年度 学 校 評 価

(学校自己評価・学校関係者評価)

2020/3/11

1 本年度の学校目標

| |
|--|
| 学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」 |
| ○めざす学校像 「学ぶことが楽しい学校」「教育環境が整備され、活気ある学校」「安全・安心で保護者や地域と連携し、信頼される学校」 |
| ○めざす児童像 「自ら考え、練り合いながら、意欲的に学ぶ子」「自信をもって表現する子」「互いの良さを認め合い、共に伸びようとする子」「ふるさに誇りを持つ子」「心身ともに健康で、自他の生命を大切にす児童」「根気強くながらぶ子」 |
| ○めざす教師像 「一人一人の児童の良さや可能性を伸ばす教師」「自らの専門性と実践的指導力を向上させる教師」「使命感や情熱をもって自らを高め、互いに切磋琢磨する教師」 |

| 2 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善) | | | |
|--|---|------|---|
| 分野 | 評価項目・取組内容 | 達成状況 | 学校の取組状況・改善の施策 |
| 学校全体 | 学校の教育方針や情報などを保護者や地域にわかりやすく伝えているか | A | 〔取組状況〕 毎月、学校だよりを全戸配付したり、ホームページで活動を紹介したりすることで、教育活動の様子や学校の願いを地域に発信している。 学級通信により子ども様をこまめに伝えている。 |
| | めざす学校：教育環境整備、活気、安全・安心、保護者・地域との連携 | B | ・学校行事では、地域の方々へ案内文書や告知放送で積極的に来校を呼びかけた。子ども声による告知放送は地域の方にも大変好評であった。 ・オープンスクールや参観日、教育講演会等、地域の方にも参加を呼びかけ、関心をもってもらうことで学校生活の様子を知っていただくことができた。 ・「子ども様について、教職員間で積極的な情報交換し、個々の課題に沿った指導を行っている」 ・毎学期の生活アンケートや毎月いじめ防止アンケート等、積極的児童の実態把握に努め、いじめの早期発見・早期対応を行っている。 |
| | めざす児童：自立、チャレンジ、共生、健康 | B | ・職員会議は、ペーパーレス化し、経費や資源・時間等の節減に努力。勤務時間の適正化につなげた。 ・毎週水曜日の「定時退勤日」に加え、宿南小独自の「定時退勤日」を月2日設定したことで、勤務時間の適正化により職員の見識も高まっている。 ・毎月の生活目標と、毎月の全朝会で、全児童が草庵先生の教えを学び、生活に生かそうとしている。 ・全教員が朝のあいさつ当番の間でも、児童との関わりや地域とのつながりを深めることができた。 |
| | 児童の人権を尊重するとともに、いじめの防止・体罰防止に努めたか | A | 〔改善の施策〕 ・業務の効率化を図る工夫を更に進め、教職員が子どもと向き合う時間をしっかりと確保する。 ・これからも積極的に行き届くが、学校全体で共有し、組織でいかに対応していく。 ・外遊びや集団遊びを仕掛け、全校生で体力アップにつながる取組を計画・実行する。 |
| | 勤務の適性化に全職員で取り組み、子どもと向き合う時間を確保しているか | B | |
| 授業の様子 | 児童は、自ら学び自ら考える力は育っているか | B | 〔取組状況〕 ・「授業の流れ」の提示や、「め」(めあて)・「ま」(まとめ)・「ふ」(ふりかえり)などの掲示物を使用し、UD(ユニバーサルデザイン)化を進めた。 ・一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導により、基礎・基本の確実な定着を図った。 ・「ガイド学習」による児童主体の授業展開を取り入れ、児童が主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせた。 ・小中一貫教育として入鹿青溪地区で自主学習の手引きを作成し、手引きに添った自主学習に取り組みせたり、廊下に掲示をしたりして定着を図った。 ・E-kids timeという時間をつくり、1年生から4年生もALTと一緒に活動をし、全校音楽で英語の歌を取り入れ、ALTによる発音指導を行ったりして、英語や外国の文化に親しむ機会を増やした。 |
| | 教師は、指導方法・指導内容の工夫・改善に努めているか | B | ・朝の会でスピーチのメモをもとに、聞く力やメモをとる力の向上を図った。 ・3・4年生がタブレットを使ったドリル学習をする中で、個々の課題に合わせた問題に主体的に取り組むことができた。来年度は全校生で取り組んでいく。 〔改善の施策〕 ・子ども同士の学び合いにより理解を深めているよう、主体的・対話的な学びに向けさらに取り組んでいく。 ・少人数の良さを生かして、個別の指導を丁寧に行ない、基礎基本の定着や体験活動を重視した学習を進める。 |
| | 教師は、基礎基本の定着と個に応じた学習指導を行っているか | A | |
| 社会性・人間性の育成 | 児童は、集団生活に必要なきまりや約束を守っているか | B | 〔取組状況〕 ・児童会が中心になり、草庵先生の教えの中から月目標を選び、各学年の学年目標に連動させることで、子どもたちの意識化を図った。 ・全ての子どもたちに全校生の前で発表させることで、自分の意見を大勢の前でしっかりと述べることや考えをまとめて話し方を学んだ。 ・自己チェックの実施と結果の活用、子どもを語る会の実施、家庭との連携などにより児童理解に努めた。 |
| | 児童は、「そうあんくんの目」に計画的・意欲的に取り組むことができているか | A | ・1日指導や児童との会話、遊びの様子を観察、面談等を通して、児童の内部理解に努めるとともに、教師全員が子ども達全員の担任という意識で指導に努めた。 |
| | 児童は、地域行事へ積極的に参加し、地域の人々と交流を深めていたか | A | ・「そうあんくんの目」の取組では、「そうあんくन्दカード」を活用し、テレビやゲームの時間を家族との時間や手伝い・読書に使う意識づけを図った。 ・小中一貫教育の役割の一つとして、学校からも地域行事への参加を呼びかけたことで、地域の行事にたくさん子ども達が参加した。 〔改善の施策〕 ・子どもの実態把握を継続的・計画的に実施し、児童理解を深め、一人一人の子どもに寄り添った指導に努めている。 ・「そうあんくんの目」の取組を活性化させるため、よく頑張っている児童の取組の様子を全校朝会等で紹介する。 |
| 教育活動 | 道徳・人権・福祉・特別支援教育 ・個に応じた教育を推進できたか ・体験活動を通じた道徳教育を推進したか | A | 〔取組状況〕 ・来年度からのプログラミング教育導入に向け、全校生でロボットを使ったプログラミング講座を受講した。 ・考え、議論する道徳力の研修を進め、指導方法を高めた。オープンスクールで保護者にも公開した。 ・行輪づくりや音楽鑑賞、地域の防災訓練や飛行機遠足等、それぞれの学年に合わせて貴重な体験学習ができた。 ・「たじま庄訪問」や「ふれあい郵便」の福祉活動を通して、児童に「共に生きる」という意識を育てることができた。 ・各学年の「おすすめ20冊」は、全校生が読破できた。 |
| | 健康教育(性教育・食育) ・系統的で児童の心身の健康に配慮する指導ができたか ・教育全般を通して指導を行うことができたか | A | ・職員の時刻を早めて、担任が朝読書の時間に、教室で児童と一緒に読書をしたり、指導ししたりした。 ・特別支援教育の研修やスクールカウンセラーの活用、通級指導等、個別の指導や支援に關する専門的な研修を行なった。 ・1月17日の避難訓練は児童が予想しない掃除の時間に行ったことで、より実践的な訓練ができた。 ・小中一貫教育の6年生登校や4年生の小連携、1・2年生や5年生が「共働き」という意識を育ぶことができた。 |
| | 防災・環境教育 ・地域の特性に応じ、連携のある取組を推進したか ・計画的・継続的に児童の危機回避能力の向上を図る取組ができたか ・身近な環境に関心をもちた課題意識を育てることができたか | A | 〔改善の施策〕 ・山体験やふるさと学習、草庵先生の学習等、系統立てて指導できるような取組を整理していく。 ・プログラミング教育や外国語活動の更なる充実を図る取組を計画する。 ・タブレットや大型モニターの活用について今後も積極的研修や情報交換を行う。 ・地域の教育資源の活用を促進し、地域と子ども達をつなぐ取組を進める。 ・考え、議論する道徳の授業づくりの研修を更に進める。 |
| | 情報・図書館教育 ・児童の情報活用能力と情報モラルの育成ができたか ・教育活動全体でICTの効果的な活用を進めることができたか ・読書の習慣化、家庭読書の定着を進めることができたか | B | |
| | ふるさと・キャリア教育 ・計画的・系統的に地域素材・人材の活用ができたか ・キャリア教育を推進することができたか | B | |
| | 小中一貫教育 ・小中一貫教育を見据えた上で、小中連携を推進することができたか | A | |
| | オープンスクールやPTA活動などにおいて、保護者や地域の方と連携を深めているか | A | 〔取組状況〕 ・地域の方々に講師に招聘し、クラブ活動や環境体験事業、米作り体験等を行い、多様な体験学習を行うことができた。 ・年2回(8月・3月)の親子参事作業と資源回収では、PTA会員と4年生以上の児童が参加し、学校環境整備ができた。 ・運動会や学習発表会(地区文化祭)では、学校・PTA・地域が一体となって盛り上げることができた。 ・地域の教育資源を生かす取組の一つとして、地域の方を講師に招いた教育講演会を行なった。 ・コミュニティ・スクール説明会では、地域の方と保護者とが一緒に「熟議」を行っていた。子ども達に身に付けさせたい力について共通理解を図ることができた。 〔改善の施策〕 ・学校だけでなく、地域でも児童が大きな声であいさつできるように指導する。 ・行事だけでなく授業参観にも地域の方に参加していただくように努めていく。 ・コミュニティ・スクールを推進するため、地域と学校が一体となって子ども達の指導に関わる仕組みづくりをしていく。 |
| 学校は、地域の人材、施設、歴史、自然などを教育活動に活用しているか | B | | |

| 3 総合的な学校関係者評価 | |
|---|---|
| 自己評価の適切さ | 自己評価の適切さ |
| 本年度の宿南小学校の教育活動は、積極的に地域へ働きかける活動が多かった。地域住民も宿南小学校の取組に関心を寄せている。運動会や学習発表会だけでなくオープンスクールや授業参観に地域住民が参観する様子も見られた。今後も積極的に地域に呼びかけてほしい。 | 自己評価の適切さ ・学校自己評価・児童アンケート・保護者アンケートとともに、学校評議員会やPTA会議、各行事の取組やPTA会議等を実施することによって、保護者や地域の声に積極的に耳を傾けようと努力している点は評価できる。 ・池田草庵先生の取組をはじめ、少人数指導や縦割り班活動など、宿南ならではの取組が継続されていく。今年も小学生の声で行事告知放送をしたり学習でお世話になった地域の人や授業参観に来られた方に、地域に関心をもち、子ども達にさらなるような取組ができてほしい。今後も期待したい。 |
| 少子化ではあるが、宿南地区は自治協議会やPTAが核となって地域行事等を盛り上げている。そこにはほとんどの児童も参加している。今後も学習行事や子ども会行事、地域行事等に学校・PTA・子ども会・自治協議会がお互いに協力しながら、子ども達の健全育成に向けて協力していきたい。コミュニティ・スクールに向け、地域 | ○学校全体について ・月2回の学校だより週1回程度の学級通信、週に1・2回程度のホームページの更新等、こまめに学校の様子を伝えていただき様子がよく分かった。 ・生活アンケートやいじめ防止アンケートなどにより、いじめの早期発見・早期対応に努力されている様子がよく分かった。体罰やハラスメント等も一切ないという結果も安心した。 ・月に1回、全校朝会、草庵先生の教えを挨拶した本「モミの木は高くそびえて」を全児童が読誦し、その教えを学んでいるのはよい取組である。 ・勤務時間の適正化に向け重点目標を決め、宿南小独自の定時退勤日にも月2日設定されている。夜遅くまで仕事をされてないようなので、元気が子どもと向き合うことができてよかった。 ・授業参観で英語の授業を見た。子ども達の学びがよくわかった。新たに取組み始めた全校音楽での英語の歌やE-kids timeを続けてもらいたい、これらも低学年から英語に親しませてほしい。 |
| | ○授業の様子について ・授業では、子ども達の姿勢の乱れが気になった。それに対しても体幹を鍛える運動を取り入れて改善を図っている様子が分かって安心した。家庭でも注意して見てほしい。 ・一人一人の学びが伸びてきているのは当たり前で、少人数の良さを生かして一人一人がしっかりと見方をつけてやってほしい。 ・タブレットを導入された大型モニターも各教室に配置されたし、学ぶ環境がどんどん変わっている中で、今後も積極的に活用して欲しい。また、プログラミング教育も始まっている。今の時代に合わせた教育活動も積極的に取り入れてほしい。 ・先生の指導の部分の評価に「B」が多いが、もっと改善できるといふ謙遜しているだろうか。「A」でもよいのではないだろうか。 |
| | ○社会性・人間性の育成について ・5・6年生の児童が、登校後、学校の校門付近の掃き掃除、あいさつ当番などをよく頑張っており、また伝統として受け継がれているのをうれしく思う。しかし、児童の中には、あいさつの声が小さかったり、地域のであいさつができていないといった現状も見られる。気持ちのよいあいさつができるよう年度も指導を続けてほしい。 ・道徳教育に力を入れているのは大切なことだ。コミュニティ・スクール説明会でも、道徳心について多くの意見がでた。これからも積極的に進めていくべきだ。 ・4年生の積極的な取組も全校生に「たじま庄」訪問も吉くら続けている取組でもとても大切だと思う。今後もぜひ続けてほしい。 ・中學生が自分の区で奉仕作業をしている。小学生も一緒にやってくれるとうれしい。 ・「そうあんくんの目」は子ども達に根付いてきている。マンネリ化しないようPTAにも積極的に発信していきいよいい。 ・「ガイド学習」やがんばり発表、スピーチ活動等、大勢の前で話す体験をたくさんしている。子ども達もだんだん自信をつけ、自分の言葉で発表できるような力をつけてもらっている。中学校に進学した子どもたちも、しっかりと発表ができているようでありがたい。 ・4年生で伊佐村や高柳小と交流するのは自治校前にも既知知りになれて安心する。これも園との交流も1・2年だけでなく5年生もできて、来年度6年生として活躍してくれることを期待したい。中学校登校も他校の児童とたくさん交流をもつことができていて、小規模校のデメリットに対する取組もありがたい。 ・おすすめ20冊を全員読んでいるというのはすばらしい。読書好きが子どもが育つべきではない。 |
| | ○その他 ・コミュニティ・スクール説明会で学校と保護者と地域の願いが共通理解できた。来年度は学校運営協議会として、地域と学校が一体となって取り組める活動を探っていきたい。学校としても地域の教育力を活用したい場面を整理しておいてほしい。 |